

F-5 家計構造に関する事例研究
岩手大教育 後藤和子

目的 ライフサイクルに対応する家計の生活設計について、その基本的なあり方を
知るために、家計簿の分析検討をこゝろみだ事例研究である。

方法 世帯主1人の収入による一般家庭については、昭和36年より46年までの
10年間、また共働き家庭については、昭和32年より46年までの15年間、それ
ぞれ記帳された家計簿を分析、比較検討した。内容的には

- (1) 収入および、消費構造の時系列的な変化を考察する。
- (2) 両家の消費構造を比較検討する。
- (3) 消費構造について両家の生活周期の相異による特異性をとらえる。
- (4) 各生活段階に対応する消費のあり方を検討する。

結果 1消費構造の変化をみると両家とも基礎的消費の割合が低く、雑費の割合
がいちぢるしく高い。このことは、総理府の家計調査にみられる都市家庭の一般的
動向と同様である。

2. 世帯主1人の収入による家庭の生活段階に対応した消費構造の特徴は、子供の大
学教育により、教育費を含む雑費が、はなはだ高い。そのため他の支出費目の割合
がいづれも10%前後と低くおさえられている。

3 共働き家庭においては、子供が幼児期から義務教育の段階であり、保育のための
手伝い人の給金費が雑費の比率を高めている。また住宅建築に支出の重点がおかれ
住居費の比率が高いのが特徴である。